

史跡メモ
みょうしように 妙正尼(金丸トワ)の墓
みょうほうれんげきょう 妙法蓮華経 一字一石塔
お地藏さん
裂田橋 (平成18年10月3日開通)
コースメモ
110. 橋—45 (妙正尼の墓へ)
111. 橋—46
112. 取水口—23
113. 橋—47
114. 取水口—24(堰) たけざいきりせき (竹崎碇堰)
次号へ 五郎丸地区周辺

妙正尼永遠にねわれる法華谷
双葉山との縁残さむともえ

墓石は双葉山がわざわざ延岡まで出かけて選んだ延岡石で、高さが3mあり、当時国鉄雑餉隈駅(現南福岡駅)まで貨車で輸送し、駅から現地まで荷車に乗せて運びました。切り立った山に運び上げるのに「かぐらさん」という巻き上げ機が使われました。作業には大勢の地元の人たちが協力され、「マイターマイター」と大きなかけ声が響きわたっていたそうです。盛大な「開眼供養」が行われ、このときには双葉山も出席されたそうです。

墓の後方の山頂に、『妙法蓮華経 一字一石塔』があります。塔の下に一字一石の経文が納めてあると古老は話されています。建てられた年代は分かりませんが、炭焼の一字一石塔と同じく当地で疫病に倒れた人々を弔うために建てられたものとも言われています。五郎丸区では4月と7月に清掃をし、「おこもり」など今でも大切にお祀りされています。

そばの小さな祠には、お地藏さまも祀られています。ここで小山を降りて溝に戻ると、水路は大きく右へ曲り橋—46、取水口—23、橋—47へと続きます。橋—47の前面は東西をさえる形で高架橋「裂田橋」が架かっています。裂田橋は平成18年10月3日に開通した県道 那珂川大野城線で、松木南の信号とミリカローデン那珂川南側を結んでいます。裂田橋をくぐった所に取水口—24「竹崎碇堰」があります。この堰では川幅い

つばいに杭が立ち、灌漑期には板で水をせき止める昔ながらの姿を見ることが出来ます。炭焼地区より下流は、昭和50年代に溝の改修工事が進められ、全域三面側溝に変わりました。右岸側に松木地区と結ぶ水路がありますが、同地区には田んぼがなくなり、今では雨水路としての役割だけが残っています。

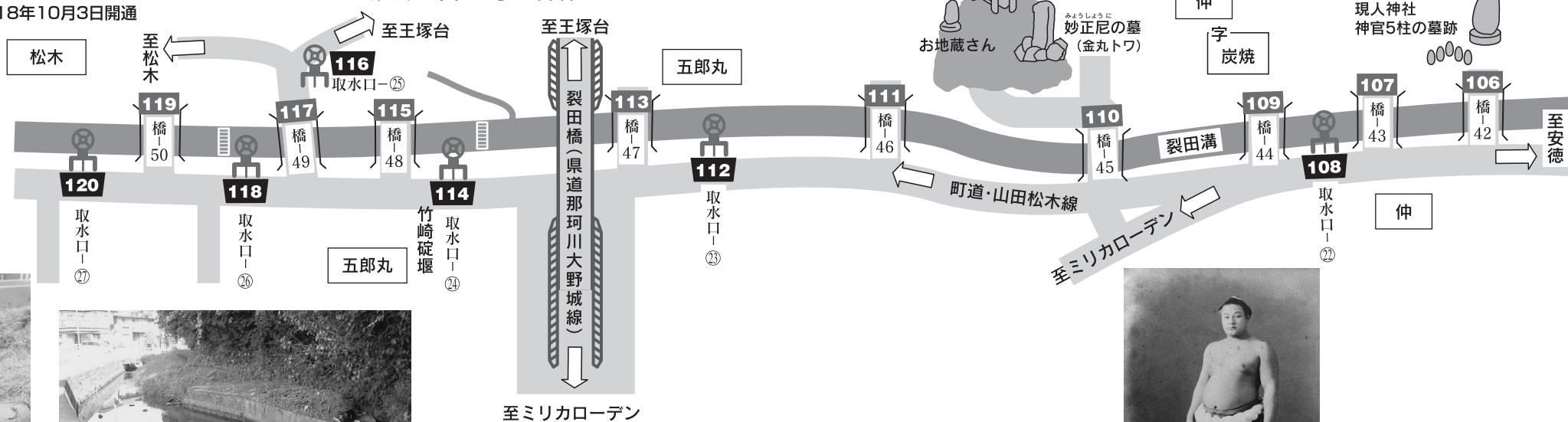
次号も五郎丸地区を紹介します。



さくたはし
裂田橋
平成18年10月3日開通



みょうほうれんげきょう いちじいっせきとう
妙法蓮華経 一字一石塔



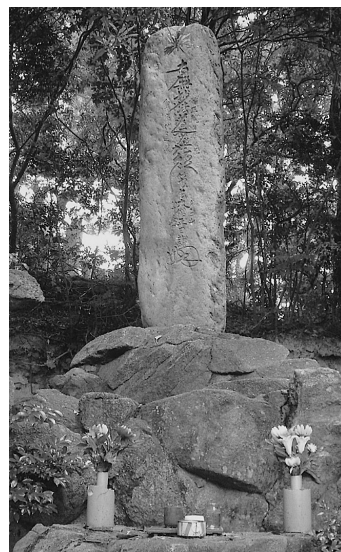
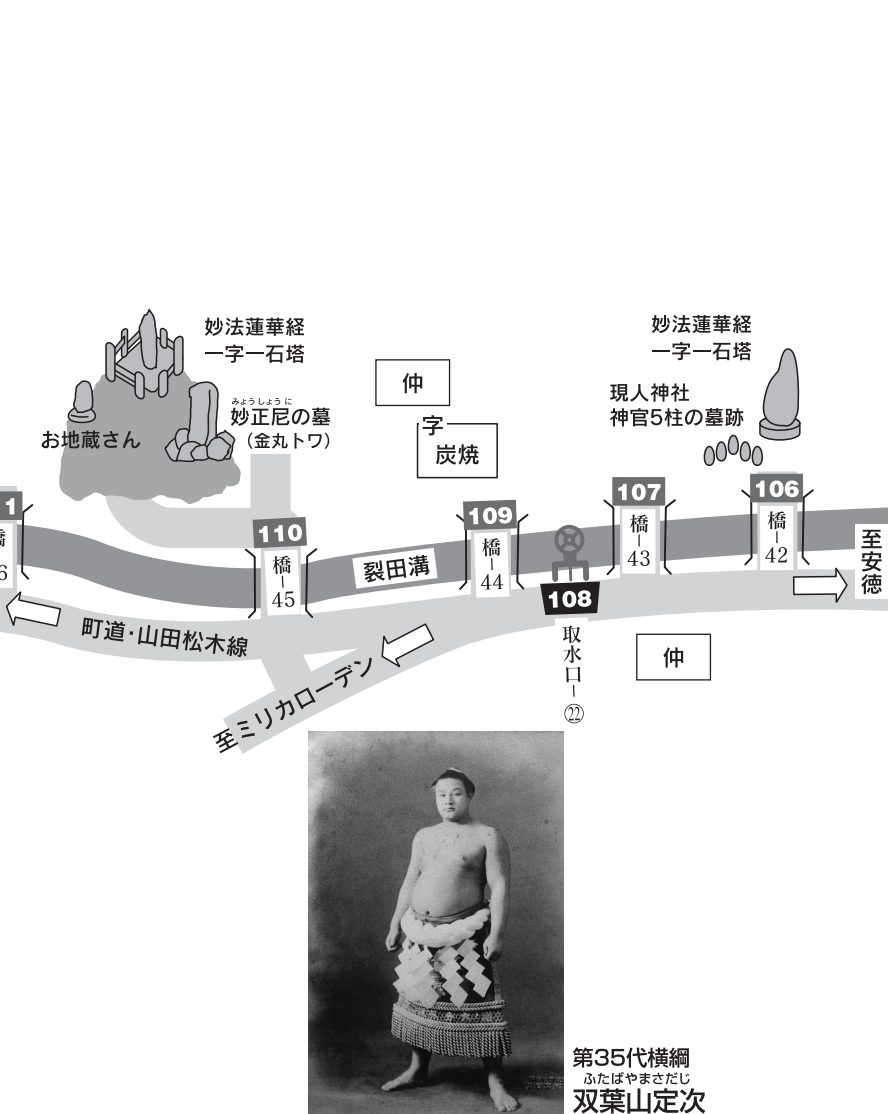
たけざいきりせき
改修工事前の竹崎碇堰(昭和50年頃)



たけざいきりせき
竹崎碇堰

炭焼地区を過ぎて、橋—43を渡ると仲丸団地へ入ります。次の橋—44の手前に五郎丸地区の田んぼへ入る取水口—22があります。眼前に広がる広大な水田は、那珂川町を代表する農村景観の一角です。橋—44は、仲丸団地と五郎丸団地へ入る橋です。この先、道は2方向に分かれ、左はミリカローデン那珂川へ、直進は裂田溝に沿って松木方面へと通じています。橋—45を渡った団地の東側に、シイの太木におおわれた小山があります。この中腹に「妙正尼(金丸トワ)」の墓があります。この人は、上梶原榎木谷の日蓮宗「蓮教寺別院」の妙音の滝で修行された尼僧です。妙正は東京に教会所を持っていたことがありました。その教会所の近くに相撲部屋があり、兄であった相撲取りの佐賀錦は、弟子の双葉山定次を連れてよく遊びに来ていたそうです。双葉山は18歳の頃、不治といわれた難病にかかりました。妙正は親身になって介抱し、治癒祈

祈を行っていました。その甲斐あってか、双葉山は難病を克服し第35代横綱となりました。双葉山の場所ごとに、妙正は上梶原の妙音の滝へ籠って全勝を祈願し続け、どの力士も成し遂げられなかった69連勝を達成しました。やがて70連勝を前に妙正は亡くなり、同時に双葉山も70連勝の偉業を安芸の海にはばまれました。不敗の信念を破られた双葉山は、自らこっそりと妙正が籠った妙音の滝に21日間参籠し、精神の修行を行ったということです。このことは、当時の新聞に大きく報じられ、筑紫郡安徳村上梶原の妙音の滝は、名横綱双葉山の信仰道場として一躍有名になりました。妙正の死後も双葉山はしばしば妙音の滝を訪れ、地元の人たち、特に子どもたちとの交流を楽しみにしていたそうです。



みょうしように
妙正尼(金丸トワ)の墓
双葉山定次(第35代横綱)昭和16年11月建立



みょうしように
生前の妙正尼(金丸トワ)

探訪 109

ながわ

那珂川町郷土史研究会

裂田溝36

五郎丸東側周辺

